



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018 年度国際ロータリーのテーマ

ロータリー：変化をもたらす

●会長 白木 誠一
●幹事 古田 哲朗

No.1601 平成 30 年 02 月 07 日 第 28 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30～ <http://www.serc2720.org> email:serc@serc2720.org

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

■点鐘

■国歌斉唱

■四つのテスト唱和

(職業奉仕担当 宮川義行)

■来訪者紹介 (会長 白木誠一)

米山奨学生 翁力棟 君

■新会員入会式 (会長 白木誠一)

井村宣敏 君

■米山奨学金の授与

(会長 白木誠一)

米山奨学生 翁力棟 君

■2月誕生祝い

益田敬二郎 会員 2月 1日
古庄 浩二 会員 2月 26日
永野 昭一 会員 2月 1日
前田日出夫 会員 2月 3日
山田 公也 会員 2月 2日
古田 哲朗 会員 2月 16日
彌富 照皇 会員 2月 19日

内田 妙子様 2月 4日
山本 文子様 2月 3日
彌富 道男様 2月 9日
渡邊真奈花 様 2月 15日
西村雅佐代 様 2月 17日
鷺山 銀子様 2月 23日



■会長の時間

(会長 白木誠一)



施設の高校生通学用自転車寄贈支援

先日、地区補助金を利用した、施設への自転車支援のための寄贈に行ってきました。私の担当は3台分 45,000円です。熊本県下の15施設に60台、合計90万円分自転車を送る企画の一つです。藤崎台童園施設には自転車3台分 45,000円の寄付のために緒方会員と訪問してきました。

地区の補助金を受けるには、1年前から地区のセミナーを受け、準備がはじまります。下記にその申請の流れを表にしております。施設の現状を聞いてみますと入所者数は47名在籍で3歳から、高校生位までの事でしたが、現在、親のいない子供は殆どいないとのことでした。

入所者の原因の殆どは親の育児放棄、DV(ドメスティック・バイオレンス)でした。母親が離婚後、父親が変わり愛情不足から、起きていたところが、多いそうです。父親が二度三度と変わる家庭もあるとの事。そこで、役所が親に指導をし、家庭に返せるかどうかの判断も難しいそうです。そういう愛情不足の子供は、周囲の大人たちに、愛情を求めるようで、相手の大人に警戒心が全くなく、誰にでも話しかけ、付いて行くそうです。考えてみますと、サマーキャンプの「1日おじさん」の時もそのように感じる事が毎回あったように感じます。

時代の流れと共に、核家族が進んできたことも、一つの原因ではないでしょうか。

2007年から始まった慈恵病院の「こうのとりのゆりかご」の子供たちも今年で11歳の小学5年頃になるようですが、報道機関からもよく、「こうのとりのゆりかご」からの子供がいるか取材を受けるそうですが、本人のプライバシーを守るために公表はしてないそうです。

今後の行事

| 開催日 | 行事名 | 場所 | 会場 | 出席者 |
|-----------------------|------------------|--------|--------------------|--------------|
| 2018年 3月10日(土)・11日(日) | 会長エレクト研修セミナー | 大分県大分市 | ホルトホール大分 | 白石繁 |
| 3月16日(金)・17日(土) | 地区大会 | 熊本県熊本市 | 熊本ホテルキャッスル・熊本市市民会館 | 案内中(2/5締め切り) |
| 3月31日(土) | 熊本城東RC創立30周年記念式典 | 熊本県熊本市 | 熊本ホテルキャッスル | 全員登録 |
| 4月8日(日) | 地区研修・協議会 | 大分県大分市 | ホルトホール大分 | 新着 |

施設の高校生通学用自転車寄贈支援
～ 準備および実施の流れ ～

★は地区補助金申請手続きの流れ

| | |
|-------------|--|
| | ★1月下旬or2月上旬 地区補助金管理セミナーに参加(参加しないと補助金申請ができない) |
| | ★1月末～2月 地区とMOU(覚書)を交わす(実施年度の会長&会長エレクトの署名が必要) |
| 3月 | 熊本県社会福祉協議会施設福祉課から寄贈対象施設並びに寄贈台数(予定)を教えてください。 |
| | ★3月末 受給計画書提出 |
| | ★4月末 地区補助金の申請 |
| | ★地区補助金専用口座開設 |
| 12月上旬 | 熊本県養護協議会会長の許可を得てから、各施設に新高校に通学用自転車購入資金の支援金を贈呈する旨を文書にて連絡する。 |
| 1月上旬 | 各施設に支援金の贈呈の際に受け取りの領収書を用意していただくことと自転車購入後に写真の提供をしていただくようお願いの文書を郵送する。 |
| | ★1月15日まで 補助金送金依頼書を提出(地区から毎月20日に振込) |
| 1月中旬 ～下旬 | 熊本東南RC全会員を班分けし、各班のリーダーが担当の施設に連絡を取って訪問、支援金を贈呈する。(贈呈の様子を撮影してくる。) |
| 3月末日迄 | 各施設より自転車購入後の写真が送られてくる。 |
| | ★4月15日まで 事業報告書を提出(通帳、写真、領収証を添付) |
| | 完了! |

★2017～2018年度地区補助金金額 280,060円

クラブ拠出金 619,940円 + 地区補助金 280,060円 = 総事業費 900,000円
(自転車1台あたり15,000円支援 × 60台分)
(施設15ヶ所)

■幹事報告(幹事 古田哲朗)



1) 永田壮一 ガバナー、赤山武興 2019年規定審議会代表議員より、規定審議会について。

2) 高山泰四郎 ガバナーエレクト、前田眞実 次年度研修リーダー、藤田敬治 次年度地区幹事より、2018～2019年度地区研修・協議会の案内。

開催日 2018年4月8日(日)

会場 ホルトホール大分 大分市金池南1-5-1

ホストクラブ 大分1985ロータリークラブ

3) 一般社団法人ロータリーの友事務所より、2018～2019年度ロータリー手帳の案内。

■委員会報告

(会報・雑誌担当委員 村瀬直久)



「ロータリーの友2月号」紹介

- ・2月は平和と紛争予防/紛争解決月間
- ・2月23日はロータリー創立記念日

■委員会報告

(次期幹事 村瀬直久)

2018～2019年度地区研修・協議会へのご出席のお願い

■委員会報告

(職業奉仕担当委員 宮川義行)



職場訪問の件

(2月28日、扇田環境センター)

■委員会報告

(青少年奉仕担当 松本一也)



熊本東南ロータリーアクトクラブ

2月24日例会の件

■委員会報告

(会員増強担当委員 松本繁)



「新入会員セレモニー」

6月末まで45名目標(あと1名)



■出席報告

(出席・プログラム担当委員 河岸彦治)



| 月日 | 会員数 | 出席者数 | MU | 修正出席者数 | 出席率(%) |
|--------|------------------|------|----|--------|--------|
| 01月24日 | 41 (免3) 38 | 28 | 2 | 30 | 78.95 |
| 02月07日 | 44 (免3) 41 | 29 | | | 70.73 |

新入会

01月31日 渡邊一弘 山本修三 井村宣敏

出席免除

01月24日 住江正治 鷲山法雲 島村徹男

02月07日 住江正治 鷲山法雲 島村徹男

欠席者(8名)

01月24日 内田敏視 山本浩之 山坂哲生

西村陽介 坂梨友一 益田敬二郎

堤勝也 白石繁

今度の100%出席の日は 02月28日です。

■スマイル

(親睦・スマイル担当委員 横山佳之)



◎彌富照皇 10,000円

主人と私の誕生祝いありがとうございました。

昨日、台湾東部花蓮で大きな地震がありました。1日も早く被害に遭った皆さんが元の生活を取り戻されることを心よりお祈りします。

◎前田日出夫 5,000円

誕生祝いありがとうございました。59歳になりました。

◎宮川義行 5,000 円

先週の例会の後、志賀会員と2人で荒尾のシオン園に自転車贈呈の件で行って来ました。園の卒業生たちの就職先がなくて困っていると聞いていました。進学を希望する場合の奨学金制度も無いように聞いています。園の子ども達の8割は親からの虐待、育児放棄だそうです。施設の抱える問題は山積みです、運営面の問題も抱えていて荒尾方面のロータリーの方の協力、支援がいただけたら助かると言われました。今後の課題だと思います。夜は志賀会員と一緒に「菜の花」でした。楽しい夜でした。

◎永野昭一 3,000 円

誕生祝いありがとうございました。

■卓話

(国際奉仕担当 小畑成司)



国際奉仕関連卓話

■点鐘

編集者 村瀬直久

国際奉仕

国際奉仕とその歴史的経緯

ロータリーの第4奉仕部門で、国際理解、親善、平和を推進するために実施する全ての活動を言います。初期のロータリーには今日の人道的奉仕活動を主体とした国際奉仕の概念はありませんでした。しかし、第一次大戦中の1917年頃より米国やカナダ、ヨーロッパのロータリークラブが各地の避難民や傷病兵、復員してくる軍人に対するボランティア活動や物資援助を行うなど歴史的背景を受けて、「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人および地域社会のリーダーの世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する」という国際奉仕の概念が、1922年に綱領の第6項目として正式に明文化され現在に至っています(ロータリー章典 8.050.1.)。

2度にわたる世界大戦を通して世界平和を願うロータリアンは、1945年には米国合衆国国務省から要請を受けて、49名が国連憲章の原案作成作業に参加したといわれています。これはロータリーの歴史の中でも特筆すべき国際奉仕活動でしょう。

個々のロータリアンの責務

世界で紛争や戦争など有事の際には、国際ロータリーは中立を守る立場にあり、当該国のロータリークラブとロータリアンは、それぞれ国法を遵守しなければならず、これらの国々の間では友情や親睦を築く事は困難になります。つまり世界の恒久的平和の推進を願うロータリーの国際奉仕活動も、有事の際には限界があるという矛盾もはらんでいるのです。しかし、ロータリアンは手続要覧 89 頁に記されている個々の責務を忘れてはなりません。愛国主義にとらわれず、自分が、国際理解と親善と平和を推進するという責務を共に負っているものとみなすべきである。国家的または人種的優越感によって行動しないようにすべきである。他国民と強調する共通の基盤を求め、これを育成すべきである。理想、言論、集会の自由、迫害と侵略からの解放、欠乏と恐怖からの解放を享受できるように、個人の自由を守る法律と秩序を擁

護すべきである。

どこかが貧困であれば、全体の豊かさを危うくすると認識し、あらゆる国の人々の生活水準を高めようとする行動を支援すべきである。

人類に対する正義の原則を高くかざすべきである。この原則は基本であり、世界的なものでなければならないと認識すべきである。国家間の平和を推進しようと常に務め、この理想のためには個人的犠牲を払う覚悟をすべきである。

実践されれば、必ず豊かで充実した人生をもたらす、倫理的・精神的な基本水準が存在すると認識しながら、国際親善の一步として、あらゆる他の人々の信念を理解する心をかき立て、これを実践すべきである。

国家間の関係が緊迫しているところで活動やプログラムを実施する場合には、適切な注意を払うべきである。

国際奉仕の分野

国際奉仕には世界社会奉仕活動、国際レベルの教育及び文化活動、特別月間と催し、国際的な会合の四つの分野があります。

世界社会奉仕活動

1) 世界社会奉仕活動の歴史

世界社会奉仕活動は、発展途上国や開発途上国に対する人道的奉仕活動という新しいニーズによって、国際奉仕活動に新しい流れをつくりましたが、一方で、ロータリーの綱領上で国際奉仕活動の一分野であると明記されていなかったために、多くの混乱や議論を生みました。1967年に正式に国際ロータリーの常設プログラムとなり、地区とクラブは、この活動のために、WCS委員会を設置するよう推奨されています。

2) 世界社会奉仕活動とは

世界社会奉仕活動は、英語では World Community Service と記され、WCS 活動と称されています。国や行政が地域社会のニーズを満たせない発展途上国や開発途上国で、ロータリークラブも資金の制約等で奉仕活動が実践できない場合に、援助を海外の地区やクラブに求め、協力して奉仕活動を行うのが世界社会奉仕活動です。

3) 世界社会奉仕活動の要件

- ①プロジェクトが人道的奉仕活動であること
- ②2カ国以上のロータリアンが関与すること
- ③プロジェクトはこのうちいずれか1カ国で実施されること
(世界社会奉仕要覧 行動への指針 http://www.rotary.org/RIdocuments/ja_pdf/742ja.pdf)

4) 世界社会奉仕活動の恩恵

WCS 活動の恩恵は、援助される側の人々だけではなく、活動に参加した私達ロータリアンもこうむることを実感して下さい。私達の活動によって助けられた人々と喜びを目の当たりにする時、私達奉仕を実践したロータリアンも大きな喜びを手に入れる事ができます。さらに国際理解や親睦を一層深めていく事ができるのです。奉仕の相手だけではなく、奉仕をした自分も満たされるのが、真の奉仕です。

5) ロータリーを通じてのプロジェクトの資金調達

プロジェクトの原資となる資金は、まずロータリアン個人やクラブが提供しなければなりません、ロータリー財団から国際財

団活動資金（WF）、あるいはロータリー財団から地区に供与される地区財団活動資金（DDF）と地区補助金（DSG）を利用する事も可能です。詳細は22節ロータリー財団を参照して下さい。

6) 実践例

実践例 1：

モンゴルのロータリークラブから、医療機器を現地の国立病院小児病棟に授与するというプロジェクトへの支援の要請がきました。当地区のロータリアンは現地を視察、緊急に支援が必要であると判断しましたが、当該医療器材がモンゴルでは購入できないことがわかりました。帰国後、ロータリアンである小児科医の協力で、日本国内で海外仕様の器材を調達することができるようになり、台湾や韓国の姉妹クラブと共にマッチング・グラントを申請し、器材の購入と運送を手配しました。片や、モンゴルのロータリーの努力で、物資の輸入税免税措置が受けられるようになりました。プロジェクトに拠出した全クラブの会員が贈呈式典に出席し、多くの貧しい子供達が適切な治療を受けられるようになったという効果を目の当たりにしました。

実践例 2：

タイのロータリークラブから、歴史的に人身売買が繰り返される北部の貧しい地域で、子供達の教育支援というプロジェクトへ支援要請がきました。子供達が健康で、しっかり学業に専念し、自ら人身売買の犠牲者にならぬよう支援するのが目的です。現地のホストクラブと当地区のクラブに加えて、新潟や九州のロータリークラブも参加し、山岳民族で学校まで数キロの道のりを通う子供達に日本の中古自転車と、学校で安心して飲める清潔な水を提供する事を決定しました。現地のホスト・クラブは地域の公立校約 80 校の水質調査を実施し、協力してマッチング・グラントを申請、中古自転車と貯水タンクや浄水器を 60 校あまりの学校に寄贈しました。贈呈式には全ての協力クラブの会員が参加し、子供達と共においしい水を味わい、自転車による通学が楽しいという嬉しい声も聞きました。

実践例 3：

生後 3 日の乳児から 45 才までの 130 名の孤児や障害者の教育や生活の支援を行っているベトナムの孤児院では、貧困により入居者が増加し続けています。施設は、周辺住民の寄付や僅かな家畜である鶏の卵や、果樹園の収穫品を販売する事によって運営されていますが、収入が不十分だということが視察の結果判明しました。ベトナムにはロータリークラブは無いため、国際財団活動資金（WF）は使えませんでした。クラブの拠出金と DSG（地区補助金）を利用して、牝牛、鶏及び飼料を提供しました。その結果、生まれた子牛、多くの卵や鶏を販売できるようになり、施設の運営に貢献できました。

実践例 4：

ミャンマーでは、人々は大変貧しく、飲料水を、雨期の雨水を貯めておいたり、女性や子供が遠方の井戸や川などから、運ばなくてはなりません。水質は劣悪で、多くの子供達が水が原因で病気になったり、死亡するケースが頻繁におこります。乾期には、そのような水すら不足してしまいます。同国にはロータリークラブはなく、国際財団活動資金（WF）や DSG（地区補助金）も使えませんが、クラブは現金を拠出し、現地 NGO グループと協力して、各地で井戸を敷設しました。井戸ができた部落や村では

水質や給水量が安定し、遠方まで水を汲みに行く必要がなくなりました。

国際レベルの教育及び文化活動

①ロータリー友情交換

ロータリアンや家族のための国際交換プログラムで、海外のロータリアンの家庭に滞在し、国際理解と親睦を深めます（ロータリー友情交換の手引き http://www.rotary.org/RIdocuments/ja_pdf/rfe_handbook_ja.pdf）。

②世界ネットワーク活動グループ

ロータリー親睦グループ（職業別および趣味別グループ）とロータリアン行動グループ（奉仕活動関連グループ）が含まれます。ロータリアン、ロータリアンの配偶者、ローターアクターなら誰でも参加することができ、多くの世界ネットワーク活動グループがあります。

（ロータリー親睦活動グループ http://www.rotary.org/RIdocuments/ja_pdf/fellowships_flier_ja.pdf）

（ロータリアン行動グループ http://www.rotary.org/RIdocuments/ja_pdf/fellowships_flier_ja.pdf）

③国際青少年交換

現在「新世代プログラム」（10.5 小節参照）に入っていますが、元は国際奉仕プログラムの一つでした。高校生または該当する年齢の若者に外国の文化に触れ、学ぶ機会を提供するもので、将来彼らが地域社会のリーダーとして世界平和や国際理解を深め、生かす事が期待されています

（青少年交換要覧 http://www.rotary.org/RIdocuments/ja_pdf/746ja.pdf）。

特別月間と催し

毎年 2 月は「世界理解月間」と指定されており、クラブは世界平和に不可欠な理解と親善を強調したプログラムと活動を実施するよう要請されています。

国際的な会合

ロータリアンは国際大会（27.5 小節参照）を始めとするロータリーの国際的な会合に積極的に参加し、国際レベルで友情や親睦を深めることが推奨されています。

海外姉妹クラブとの国際交流

各クラブは、海外のクラブと「姉妹クラブ」、「友好クラブ」、「Twin Club」といったような名称で長期的な友好関係を築いています。その主な目的は国際親善と親睦活動の推進にあります。海外クラブと緊密な友好関係を築くことにより、両国のクラブは共同で相手国あるいは第 3 国で WCS プロジェクトに取り組む機会も生まれてきます。カテゴリは違いますが、近隣諸国との国際交流の場として、定期的に開催されている日韓親善会議や日台親善会議があります。ロータリアンとその家族はどなたでも両会議に自由に参加出来ますので、両国の姉妹クラブ会員がこれらの国際会議と一緒に参加することにより、国際交流の輪が一段と広がる機会になっています。